

探鳥会スタッフ通信

2013年
7月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目次

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------|
| ◆安西英明の探鳥会講座
「探鳥会によって守られてきた自然」・・・ 1 | ◆探鳥会保険集計結果（2013年5月分）・・・ 7 |
| ◆探鳥会のリスクマネジメント講座
「毒ガ・ブユ・イラガ」・・・ 3 | ◆初心者の対応、どうしてますか？・・・ 9 |
| ◆探鳥会訪問記（谷津干潟探鳥会）・・・ 5 | ◆普及室からのお知らせ・・・ 11 |
| | ◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・ 11 |
| | ◆編集後記・・・ 11 |

◆安西英明の探鳥会講座

<探鳥会によって守られてきた自然>

探鳥会によって守られてきた自然は、全国各地に少なくないと思うのですが、いかがでしょうか？ 直接的ではないにしても、探鳥会が何度も実施されてきたことによって、その土地の野生生物や環境の価値が認識されることに大きく貢献してきた例は多々あるはず。自然保護に関しては、開発などで失われた自然が話題にされることが多い悲しい現実がある一方で、もし「地域に野鳥の会の活動がなかったら・・・」「探鳥会がなかったら・・・」と考えると、日本の自然はもっとひどいことになっていたに違いありません。

1995年、九州ブロック指導部による研修会に参加させていただいたことがあります。探鳥会リーダー通信準備号（1996年発行の第2号）に書いた報告から抜粋します。

二日目のグループワークで、私は「目的と対象を定めて、探鳥会の企画を作って発表し合おう」と呼びかけました。あるグループは「公園の管理方法について、野鳥や自然に配慮してもらうこと」を目的とし、「まずは、近所の方々にその公園にいろいろな鳥が暮らしていることを知ってもらうこと」を目標に探鳥会を企画しました。その発表後の討論で、「主催者は野鳥の会だけとしないで、公園管理者と共催にした方が効果的ではないか」という意見がありま

した。それに対して「公園管理者が一緒だとやりにくくならないだろうか？」との声もありましたが、「福岡支部では、公園管理者とともに探鳥会を開催することで理解をいただき、園内で刈られそうだった藪を守った」「今もその藪にはシロハラなどが飛来している」とのことでした。

きっと、その藪で探鳥会参加者にシロハラを見ていただいた時、探鳥会リーダーの苦勞は、誇りとなって報われるのではないのでしょうか。

<誰でも世界一>

野鳥誌(1998年11月号)の特集、探鳥会に「いってみよう!!」で、故浜口哲一さんに「これからの探鳥会を考える」の中で、定例探鳥会の可能性について、次のように書いてもらいました。

私はバードウォッチャーに一番大切な心がけは、自分のフィールドを持つことだと思っている。それと同じく、支部活動でも支部のフィールドを持つことが重要で、その足がかりは定例探鳥会の開催にある。保護問題との関わりでいえば、重要な生息地には定例探鳥会の網をかぶせ、何かことが起こればすぐに対応できる体制を作っていく。そうした戦略が、今必要とされているのではないだろうか。

過去の抜粋が続いて恐縮ですが、野鳥誌（1990年4号）のコラム「自然保護」に私が書いた『マイフィールド』から抜粋します。

自分のフィールドは、自分のテーマになる。同時にバードウォッチングを単なる趣味、楽しみだけに終わらせない、自然に対する深い見方を培うことができる。フィールドをよく見ていると、いつ何時でも、同じ鳥、変わらぬ風景のようでも、その時々表情の違いを見ることができるようになる。鳥がいたり、花が咲いていたりするその背景に、思いをはせることもでき、それは、守りたい自然をよく知るという意味で自然保護の原点でもあろう。

もしあなたが自分のフィールドに足繁く通ってれば、あなたはある意味で「世界一」になれる。「いつ、どこにどんな生物がいて、それぞれがどんな暮らしをしているのか?」、「季節や年による変化は?」、あるいはそれらについて「どこまで分かっているか?」「何が分かっているのか?」など、その場所に関してはどんな専門家より知ることになるからだ。知識が少なくても最新情報は持っていようし、愛着では誰にも負けないはずである。たとえて言うならそれは「初恋」ではなく、長年連れ添っているパートナーの良さを改めて見つけてますます好きになっていくような。

どんなに国際化が進もうとも、自分の地域を知らないで国際人と胸をはれるものだろうか。そう考えた時、私たちにできることが見えてくる。その積み上げがない限り、いくらグローバルに捉えたところで、地球環境問題の解決はないと思う。

上記が掲載された時、最初に賛同して下さったのが浜口さんでした。（次号へ続く）



故 浜口哲一さん
元日本野鳥の会神奈川支部長
元平塚市博物館 館長

（普及室/安西英明）

シリーズ第4回：毒ガ・ブユ・イラガ

■毒ガのなかま

*毒ガとは？

チャドクガなどドクガ科のガのうち、有毒な毒針毛をもった種を一般的に毒ガと呼んでおり、ドクガ、チャドクガ、モンシロドクガ、キドクガなどが代表的な毒ガである。

*チャドクガに要注意！

毒ガによる被害で、最も多いと思われるのがチャドクガによるものと思われる。幼虫（毛虫）は約50～600万本の微細な毒針毛をもっており、毒針毛が皮膚に刺さると毒蛾皮膚炎を生じ、刺された場所がちくちくしかゆくなる。



▲チャドクガの若齢幼虫

チャドクガは、生まれて間もない若齢幼虫の時期は、写真のように一列に並んでかたまっている。この時期に駆除する場合は、葉や枝ごと切り取って焼却処分などするとよい。



▲チャドクガの老齢幼虫

老齢幼虫になると、写真のように外観も変化してくる。また、樹木全体に分散することが多くなり、駆除が厄介になる。この段階での駆除は、殺虫剤散布ということになる。

*発生場所や症状は？

チャドクガは、その名のようにチャノキやサザンカ、ツバキなど、ツバキ科の植物を食樹とするので、ツバキの仲間には注意が必要だ。4月から10月にかけて2回発生し、幼虫は脱皮しながら成長していく。この脱皮した抜け殻にも毒針毛が残っており、幼虫がいなくても被害を受けることがあるので、注意が必要である。さらに、洗濯物に風で飛ばされた毒針毛が付着し、被害を起こすこともある。チャドクガが、生け垣など家の近くで発生した場合には注意が必要だ。

毒針毛に触れると、2～3時間して赤くはれ上がりかゆくなる。このかゆみが、長期にわたるのも毒ガの特徴の一つである。

*対処方法は？

チャドクガなど毒ガに刺されたら、すぐに衣服を脱いでガムテープなど粘着性のあるものを皮膚に張り付け剥がすことで、皮膚や衣服についた毒針毛を除去するとよい。また、シャワーで体についた毒針毛を洗い流し、かゆみ止めやステロイド含有軟膏を塗る。

肝心なのは、かゆいからといって掻きむしらないことだ。数時間後まで毒針毛が残っており、掻くと毒針毛が皮膚の深くまで入り込んで症状がより重くなってしまう。かゆみが強いときには、病院に行き治療を受ける必要がある。

■ブユのなかま

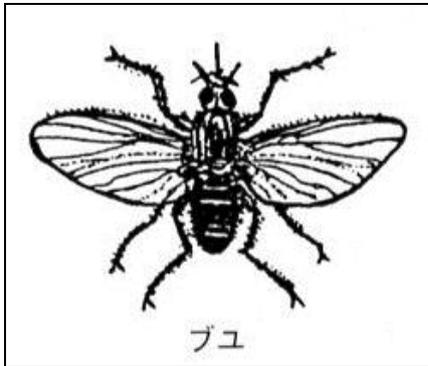
*ブユとは？

ブユのなかまは、体長2.5～3.0mmの小さな昆虫で、地方によっては「ぶと」とか「ぶよ」と呼ばれている。ブユの幼虫は、水の比較的きれいな溪流に生息しており、谷川沿いの探鳥会などでは、特に注意が必要なやっかいな虫である。わが国には、約60種のブユが知られているが、人を好んで吸血するのは数種類だけといわれている。力と同じく、吸血するのはメスだけで、産卵のためにおこなう。

*症状は？

ブユに刺されると激しいかゆみが起こり、大きく腫れ上がることがある。腫れ上がった中央部に血のかたまりが見られるのも特徴の一つだ。

よく刺される場所は顔や手足で、人によってはアレルギー反応が出て、顔が腫れ上がったり発熱したりするなど、症状がひどくなることもある。



ブユ

*対処方法は？

対処方法としては、患部に市販の抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を塗る。アレルギー症状が出た場合には、すぐに病院へ行く必要がある。

なお、刺されないための対策が必要であり、探鳥会に出かける時などには、長袖長ズボンを着るなど服装に気をつけることや、市販の忌避剤（虫よけ）を塗っておくのも有効だ。ブユは、朝夕2回の吸血活動をおこない、そのときに被害を受ける（夜は大丈夫）ので、夕方の4時から5時半ごろの時間帯に特に注意が必要だ。



▲ヒロヘリアオイラガの繭の抜け殻



▲ヒロヘリアオイラガの幼虫

■イラガのなかま

*イラガとは？

イラガとは、イラガ科とよばれるガのなかまの総称で、毒針をもつものが多い。私たちがよく被害を受けるのは、毒針を持ったイラガのなかまの幼虫で、カキやクリなどの果樹やケヤキ、スズカケなどの街路樹、ソメイヨシノなどの造園木、山中の樹木などの葉で餌を食べているものにうっかり触れた時だ。イラガのほか、数種類のイラガのなかまがあり、それぞれに生息している場所や食樹が異なっている。

*ヒロヘリアオイラガに注意！

近年大発生しているのが、外来種（インドや中国が原産地）のヒロヘリアオイラガで、身近な場所のどこにでも見られる。街路樹や庭木などに、写真のような繭の抜け殻がよくついているので、ヨメイヨシノなど樹木の幹の表面よく観察してみるとよい。

*症状は？

イラガのなかまの幼虫は、毒のある鋭い棘をたくさん持っており、それにうっかり触れると激しい痛みを感じる。外敵を察知すると、全身にある棘の先端から毒液を一斉に分泌し、それが人の皮膚に刺さると、棘の先端が折れて体内に毒が注入される。地方によっては「デンキムシ（電気虫）」と呼ばれているように、刺された時の激しい痛みは、電気ショックを受けた時のようで、思わず飛び上ってしまうほどだ。

刺された部位は、やがて赤く腫れ上がるが、痛みと腫れは数時間後に治まる。ただ、症状がひどい場合には、病院に行く必要がある。

*対処方法は？

市販の抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を患部に塗る。予防方法として、探鳥会などに出かけるときには少し厚めの生地 of 服装とし、皮膚炎を起こさないようにすることや、幼虫が発生する8～9月に特に気をつけることなどである。

（理事長/佐藤仁志）

◆探鳥会訪問記（谷津干潟探鳥会）

谷津干潟探鳥会（千葉県）

参加日時：2013年6月23日10時～13時

天候：晴れ

参加者：14名（男性10名、女性3名、堀本）

リーダー：男性5名

谷津干潟は、東京湾の最奥部、千葉県習志野市にある約40haの干潟です。シギやチドリなど渡り鳥の貴重な中継地となっており、1988年に国指定鳥獣保護区、1993年にラムサール条約登録湿地に指定されました。周囲の干潟は高度経済成長期に次々と埋め立てられましたが、谷津干潟は国が保有していた土地であったという事情とその後の運動により、埋め立てを免れてきました。その歴史的経緯から、谷津干潟は周囲を住宅や自動車道に囲まれ、長方形に残される形で存在しています。

谷津干潟探鳥会は干潟の周りの遊歩道を半周し、谷津干潟自然観察センター（※）に隣接するヨシ原と淡水池を観察するコースでした。※1994年に、習志野市によって開設された。

ここでは常駐のレンジャーの他多くのボランティアが活動。



コースの折り返し地点で谷津干潟の鳥を観察する参加者

<探鳥会の様子と観察した鳥>

この日は初参加者が約6名と、全参加者の約半数が初参加者でした。探鳥会が始まるとリーダーの1人から、

「初参加の方は私の近くに来てください」との声掛けがあり、初参加者だけの班が作られました。その後、

「双眼鏡の使い方はわかりますか？」

という確認がなされ、双眼鏡の持ち方、ピントの合わせ方など、使い方を丁寧に説明されました。

このように双眼鏡の使い方から説明していただいたのは、私が入社してからこれまで5回参加した探鳥会の中で初めてでした。

また、すぐに鳥を見つけ、鳥の種類を識別するリーダーに対して、初参加者が感心していると、

「一冊このような図鑑を持っていると、鳥の特徴を確認できて識別に便利です。」

「探鳥会などで持ち歩くときには、環境別によく見られる鳥だけを集めた薄い図鑑を選ぶとよいでしょう。」

「鳥はオスとメスや成長過程、季節などによって姿が変わりますので、それらがイラストで描いてあるものがお勧めです。」

「慣れてくると、次第に頭の中で消去法によってすぐに何の鳥か分かるようになりますよ。」

と、バードウォッチングの上達の心得のようなことを話してくださいました。

この時期は、決して鳥の種類が多い時期ではありませんでしたが、常連参加者の班にいたりリーダーからは、身近な鳥の行動を熟知した解説を聞くことができました。

「東京湾を餌場に行っているカワウのねぐらは、第6台場、上野不忍池、行徳鳥獣保護区の3か所があります。谷津干潟にエサを採りに来ているカワウは、ねぐらから群れで東京湾に行かない言わば『外れ者』だと思いますよ。」何気なくお話しされた解説からは、目の前にいるカワウの行動を東京湾という広い範囲の中でとらえなおす視点を感じることができて、とても興味深かったです。

観察した鳥は、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コチドリ、コゲラ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワの18種でした。

<参加者の声>

以下は探鳥会に参加しながら、雑談の中でお聞きした参加者のお話です。

60 歳くらいの男性：近くに住んでおり、散歩で一度谷津干潟に来たことがあります。これまで自然と親しむことなく過ごしてきましたが、定年を迎え、趣味を探しています。その一環で初めて参加しました。

50 歳くらいの女性：支部に所属しており、千葉県内の探鳥会にはよく参加しています。この時期は鳥が見られないので参加者が少ないですね。今日はカイツブリの親子が見られるかなと思い参加しました。

60 歳くらいのご夫婦：自然一般が好きで、今までも夫婦で公園などによく行っていました。最近支部に入り、支部報で探鳥会を知り初めて参加しました。

<まとめ>

日本野鳥の会千葉県では新規参加者の獲得のために、2007 年から主だった新聞各社に毎月探鳥会予定を送っているそうです。掲載され

ても新規参加者が来ないときもあるそうですが、今回は 3 紙に掲載され、新聞を見たという初参加者が 2 名いらっしゃいました。

谷津干潟探鳥会では初参加者だけの班を作り丁寧な対応をされており、バードウォッチングが初めてで参加された方も安心だったと思います。

カワウの解説をされたリーダーは、「東京湾の千葉県側の鳥の調査を何回も行っています。」

とおっしゃっていました。朝多くの群が次々と都心から海の上を東の方に飛んでいく様子や夕方 3 時ごろになると逆方向の群れが飛んでいく様子を見ているそうです。

自分のフィールドだけでなくその周辺を含めて広い範囲の情報をお持ちで、それが解説の奥の深さを生みだしているのかもしれないと思いました。

(普及室 堀本理華)

◆探鳥会保険集計結果（2013年5月分）

5月は66支部からご報告をいただき、計345回の探鳥会が開催され、のべ7,556人が参加されました。

表1. 5月の探鳥会保険集計結果（2013年7月11日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	-	-	-	-	-
オホーツク支部	4	69	33	4	106
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	3	36	42	12	90
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	10	246	10	15	271
滝川支部	1	13	2	2	17
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	3	74	20	8	102
小樽支部	3	14	5	5	24
苫小牧支部	-	-	-	-	-
室蘭支部	3	50	19	10	79
函館支部	-	-	-	-	-
道南桧山	3	34	33	14	81
あおもり	-	-	-	-	-
弘前支部	10	97	38	10	145
秋田県支部	3	31	12	3	46
山形県支部	5	34	16	6	56
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	2	31	55	8	94
北上支部	3	20	27	6	53
宮城県支部	7	84	27	13	124
ふくしま	2	45	1	6	52
郡山支部	3	38	0	9	47
二本松	2	13	1	4	18
白河	2	11	0	2	13
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	1	16	2	1	19
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	15	119	85	25	229
栃木	-	-	-	-	-
群馬	10	161	105	29	295
吾妻	2	23	2	3	28
埼玉	10	271	41	60	372
千葉県	9	120	143	39	302
東京	15	451	17	61	529
奥多摩支部	13	195	31	39	265
神奈川支部	14	217	42	43	302
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	3	60	19	5	84
石川	3	47	9	7	63
福井県	9	44	54	20	118
長野支部	7	109	25	15	149
軽井沢支部	2	30	23	2	55
諏訪	1	6	5	3	14
木曽支部	2	15	7	3	25
伊那谷支部	5	27	34	10	71
甲府支部	3	54	24	6	84
富士山麓支部	2	6	9	5	20
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	24	8	3	35
南富士支部	1	29	3	2	34
南伊豆	1	4	0	2	6
静岡支部	-	-	-	-	-
遠江	4	64	21	11	96
愛知県支部	17	163	158	44	365
岐阜	-	-	-	-	-
三重	7	41	54	9	104
奈良支部	3	58	41	15	114
和歌山県支部	1	3	1	4	8
滋賀	5	43	17	10	70
京都支部	11	127	71	24	222
大阪支部	20	377	86	91	554
ひょうご	-	-	-	-	-
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	4	39	37	4	80
島根県支部	0	0	0	0	0
岡山県支部	6	151	58	22	231
広島県支部	6	41	20	6	67
山口県支部	4	20	45	7	72
香川県支部	2	50	11	3	64
徳島県支部	5	64	12	5	81
高知支部	-	-	-	-	-
愛媛	8	74	33	13	120
北九州	3	42	21	5	68
福岡支部	8	149	28	15	192
筑豊	-	-	-	-	-
筑後支部	5	16	29	8	53
佐賀県支部	2	32	4	3	39
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	8	83	14	9	106
大分県支部	6	33	30	8	71
宮崎県支部	5	40	71	12	123
鹿児島	5	77	39	14	130
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	0	0	0	0	0
西表支部	1	0	6	3	9
全国	345	4,755	1,936	865	7,556

備考：-は報告がなかったことを示しています。

(普及室)

◆「初心者の対応、どうしてますか？」

6月号で日本野鳥の会滋賀の利倉様からのお便りをご紹介し、探鳥会における初心者対応についてのご意見を募集しました。

その結果、神奈川支部の林場弘征さま、愛知県支部の野澤徹也さま、埼玉の千島康幸さまからご意見をいただきましたのでご紹介します。

●神奈川支部 林場弘征さんからのご意見

神奈川支部の林場さんからは、ご自身で発行されているメルマガと神奈川支部報に投稿された記事を送っていただきましたのでご紹介します。

①多摩川河口探鳥会での初心者対応

以下、林場氏が発行するメルマガから抜粋。

毎回のことですが、(探鳥会の)開始前に(参加者に)伝えておくべき内容は多岐に及びます。

特に初参加者へは、マナーの注意事項や用語や用具の説明など、会をうまく進行するために最初に伝えておくべき事柄もあり、大切な時間です。例えば今回は以下のような点をお話しました。

◇探鳥会未経験者、多摩川河口未経験者のお伺い。

◇どんな鳥がお目当てで来たか。

◇先月/昨年4月の観察記録お知らせ。

◇春の渡り、冬鳥・夏鳥・旅鳥の基本を図示説明。

◇野鳥の会用語「鳥合わせ」の意味を説明。

◇配布したまとめ用紙の使い方説明。

◇本日の行程と終了予定時刻、トイレのご案内。

◇列から遅れないで歩くよう注意。

◇リーダーへの積極的な質問歓迎。

◇(担当の皆さんへ)途中で受けた質問とその答えは最後に全員で共有したい。

◇フィールドスコープの説明/ひとりひとり視度が違うのでピント合わせは各自で。

◇(スコープ持参者へ)積極的に覗かせてあげてください、ピント合わせは指を誘導して。

◇自転車道で観察するので、道の後ろ半分は空けるように声を掛け合って。

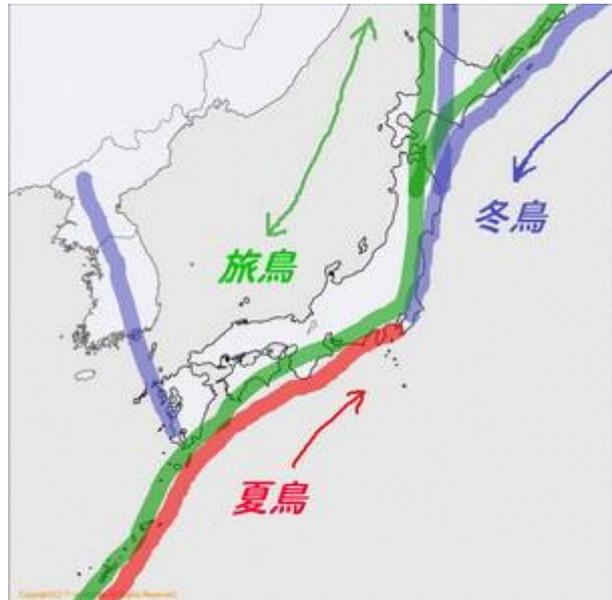
例えば「鳥合わせ」。今回はこの言葉から説明しました。野鳥の会用語の基礎知識^^。

探鳥会が初めての方には初耳の筈ですからね。

他に取りこぼしが無いかを気にしつつ話しますが、忘れていた事柄は他のリーダーのフォローに助けられて進行しています。

「渡り」の基本はこのように図を用いて説明

しました。



② 鳥の名前を参加者と一緒に調べる

林場さん執筆の神奈川支部報「はばたき」記事から抜粋。

私は「あれ何ですか?」と聞かれたときはすぐには名前を出さず、ひとまず図鑑を開けるようにしています。参加者持参の図鑑でも私の図鑑でも、解説文と絵を一緒に確認して名前にたどり着く。この方法が名前を覚えてもらうには最も理想的だと思っています。

探鳥会では周囲からの種名の出方も早くなるので、一概にそうは言ってもおられません。一度出てしまった名前でも、声だけで聞くより文字で追認したほうが間違いも起きにくくなるのは当然。例えばホウジロと書く人は結構見ますから。さらに、開いた図鑑の絵や写真で追加の解説もできるし。

初心者がいちばん名前を忘れない状況は、名前を教えてもらうのではなく、自分で発見した鳥に対して図鑑を開き、悩んでも自ら結論にたどり着いたとき。これに尽きます。

つまり、探鳥会でもその状況にできるだけ近付けてあげたいと思っています。

③ 探鳥会のまとめ方に一工夫

神奈川県支部報「はばたき」記事から抜粋。

多摩川では、鳥をよりしっかり理解して頂くための一助として、最後の「鳥合わせ」をリストにチェックを入れるだけ、もしくは名前をズラズラ挙げるだけにせず、「まとめ」として水面・干潟・上空・葦原・木立の環境別に鳥を書き込んでもらう方式を続けています。その日の鳥が名前のメモだけでなく、少なくともどんな場所にいたかが手元に残ることになります。これにより、初参加の方にも、名前だけでなく、それがどんな鳥かが覚えやすく、間違いが起きにくくなります。

また、新しい試みとして、鳥の漢字の成り立ちを解説した紙芝居を上演したり、ほぼ月2回の無料メールマガジンを発行して探鳥会での解説を補ったりしています。他支部幹部の方からも、その濃い内容に驚かれたとお褒めのお便りが届くなど、大変好評を頂いております。5年目の多摩川河口定例会も、皆様のご協力のもと、さまざまにお楽しみ頂ける会を目指していきたいと思っています。

●愛知県支部 野澤徹也さんからのご意見

初参加者に興味を持ってもらう解説ネタ

- (1) まず話しかけて、いつもどこで見ているか、どちらにお住まいか、近所で見れる鳥は？などの雑談で緊張をほぐしてもらう。
- (2) スズメやカラスの話をする事で身近な鳥の以外な側面を知ってもらう。
- (3) 鳥に関するトリビアなネタで鳥の世界の奥深さを知ってもらう。

などといった、ただ鳥を見て名前を教えるもらって「ふーん」で終わるのではなく、さらにもっと鳥について知りたい、という動機づけとなるように心がけています。

特に初心者の場合、珍鳥をお見せするよりも、カラスの相互羽繕いやスズメの砂浴びといった馴染みのある鳥の興味深い行動をじっくり

.....

初心者にとって居心地の良い探鳥会を広げていくことは、仲間を増やす基本。探鳥会スタッフ通信では、今後も「初心者の対応」について皆さまからのご意見を募集します。ぜひ様々な取り組みをご紹介ください。(箱田)

観察してもらったほうが喜んでいただけるようです。

ですから案内人として日頃から身近な鳥の興味深い側面を発見するように心がけ、それを初心者の方に語ることでおもしろさを共有するようにしています。

余談ですが今までの観察例で初心者に語って受けた事例では、こんなものがあります。

- ・求愛に失敗したみスズメがふられた気持ちを静めるためか狂ったように羽繕いをした
- ・強風の日に風によって遊ぶセグロカモメの群れがいたカワウの卵をねらうハシブトカラスは横目でさりげなくカワウを観察する。
- ・怒ったときのアオサギの顔は鬼のようにコワイ。
- ・連続14回交尾したスズメがいる(強者か、あるいは単にへたくそか)。

こんなある意味くだらない話ですが、初参加者にとって鳥の奥深い世界の入り口となればこんなうれしいことはありません。

案内人が話題を持ち合わせていなければ単に鳥を見つけて名前を教えるだけの探鳥会になってしまいます。

案内人は初参加者がリピーターとなるだけの面白さを伝えられる話題を日頃から仕入れておき、「面白さ共有者」として初心者と楽しさを共有することが我々ボランティア案内人の役目かと思えます。

●埼玉 千島康幸さんからのご意見

探鳥会の初めの挨拶の中で、探鳥会初参加者の有無を確認、いる場合は支部作成の緊急連絡カードとホルダーを配布、次回から見えるところに付けて参加するように説明します。リーダーの中のベテランで、やさしく探鳥地や鳥のことを説明できる人を専任に決めて、探鳥会が終わるまで対応しています。

◆普及室からのお知らせ

■熱中症対策の見直しを！

暑い日が続きますが、探鳥会での熱中症対策を今一度見直してください。探鳥会保険では熱中症が補償の対象にはなっておりません。歩く

コースの工夫や水分補給をこまめに呼び掛けるなど、今一度対策を見直してください。
(箱田)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記の上、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレスを記入し、tancho-staff@wbsj.org

へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

最近ではブロック会議で「探鳥会スタッフ通信読んでます。」とお声をかけていただけることが増えてきました。ぜひ皆さまからのご感想、ご意見をお待ちしています。
(箱田)

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第4号

◆発行

(公財)日本野鳥の会 2013年7月22日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2622

FAX : 03-5436-2635

E-mail : tancho-staff@wbsj.org
